

実態把握と目標設定	• 学部	中						
	• 学年							
	• 対象児童生徒の障害	<p>■知的障害、■自閉症、□LD（学習障害）、□ADHD（注意欠陥・多動性障害）、</p> <p>□情緒障害、□視覚障害、□聴覚障害、</p> <p>□その他（ ）</p>						
	• 対象児童生徒の課題	<p>課題： 人の耳を触ったり噛んだりすることがある。</p> <p>特に、ほくろのついた耳が気になる傾向があり、耳だけでなく、ほくろに興味を示すこともある。</p> <p>教員の口頭指示や呼びかけにイラッとすることも多くキッと高い声で叫び、叩くそぶりをする（肘をつきだす）</p> <p>また、言葉でのコミュニケーションもできるが限定的で単語だけで終わることも多く、言葉で自分の気持ちを伝える手段の少なさ、経験の薄さも起因しているのではないかと推察する。</p>						
	• 自立活動の目標	色々な場面での、言葉で伝える手段を学び、経験を積む。						
	• 上記目標に対応する区分	<table border="0"> <tr> <td>健康の保持</td> <td>心理的な安定</td> <td>人間関係の形成</td> </tr> <tr> <td>環境の把握</td> <td>身体の動き</td> <td>コミュニケーション</td> </tr> </table>	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成					
環境の把握	身体の動き	コミュニケーション						
• 支援の手立て	<ul style="list-style-type: none"> • 教員とのやり取りを中心に場面を設定し、まずはロールプレイを中心に適切な言葉を練習する。 • 適切な言葉で伝えることができたときは褒めることで行動の定着と自己肯定感の向上をめざす。 							
1学期の振り返り	• 児童生徒の様子、変化、課題	<ul style="list-style-type: none"> • 耳を触る、噛む行為は減少傾向になっているが、暑さにより1学期末は行動が増加した。以上のことから自身の気持ちが安定しない時の表れとしての側面も大きいことを再確認できた。気になる友達に適切なコミュニケーション（一緒に体育館に行きませんか？⇒いいよ。）をできたことも増え、その行動ができた後はその生徒の耳へこだわる様子が見られなかった。 • 少しずつではあるが、一緒に適切な会話スキルの練習をすることが有効であることを感じている。自分の疲れ、暑さなどの要因を他者に伝えることで改善した、いい方向に向かったという経験を積んでいけるように促していきたい。 						

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教員自身の成果や課題 ・ 効果的だった支援の実践方法等 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒の行動に対して課題分析を行い、前後の行動をよく観察したことで生徒が必要な代替行動や、感覚の視点で考えることができた。 ・ デイ、家庭などとケース会議を行い、様々な場面での生徒の行動を共有し、学校での方針を伝えて共有できたこともよく、その後もデイとも状況を共有しながら進めることができています。
グループ討議	<p>全校研究②学年・クラスで検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 参考になった支援方法等 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 経験、練習を重ねていくことが大事。 ・ 支援グッズを色々試して、ヒットしたものを中心に支援していく。
2学期の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童生徒の様子、変化 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教員に伝えようとする、伝えようとする幅が広がってきている。友達との関わりも遊びの中で少しずつ広がってきており、鬼ごっこやボール遊びを通じて関わっていくことができていくがルールなど分かっていないことも多いので経験を積んでいく中で関わりの手段の方法を増やしていければ。 ・ 感覚グッズは変わらず用意しているが、本人が望んで使おうとすることが減ってきた。 ・ 耳、ほくろ に対する興味はあるが、触る事は激減した。触ってしまうときは疲労や環境要因（暑い、寒い）、ストレスがかかっている状況だと推察ができる。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教員自身の成果や課題 ・ 効果的だった支援の実践方法等 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 問題の本質をコミュニケーションにしぼって対応することで早期に問題行動の軽減につながったように思える。コミュニケーションスキルに関しては、教員との日々のやりとりや、ツールを使用することで向上してきたように思える。 ・ 感覚・運動の問題にもグッズや活動などでフォローすることで本人の落ち着きにつながった。 ・ 4月から比べても本人の言葉の能力向上している（ひらがなを使って適切に言葉をかける、言い表せる）のも、本人の成長に大きく関係していると捉えている。日々の係活動（給食メニューを書く）も効果があったように思える。
まとめ	<p>全校研究③学年・クラスで検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 児童生徒の来年度の目標、課題等 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教員の口頭指示や呼びかけや、ふとした時にキッと高い大きな声で叫び、叩くそぶりをする(肘をつきだす)、または自分を叩く行為の低減。この行動も少しずつ本人がコントロールできる場面も増えてきている。アレルギーなどの体質なども関係しているので注意して様子を観察しながら、できる範囲で進めていく。

		<ul style="list-style-type: none">• 友だちや教員との関わりの経験を積む。色々な遊びの形の経験をしていく。ルール遊びを取り組むことによって自分をコントロールする力を育む。
--	--	--

実態把握と目標設定	• 学部	中
	• 学年	
	• 対象児童生徒の障害	□知的障害、■自閉症、□LD（学習障害）、□ADHD（注意欠陥・多動性障害）、 □情緒障害、□視覚障害、□聴覚障害、 □その他（ ）
	• 対象児童生徒の課題	課題： □頭指示理解はあるが、発語はほぼ無く不明瞭。コミュニケーションの取り方や距離、意思の発信が課題。
	• 自立活動の目標	• 落ち着いて学校生活を送ることができる。 • 適切な距離や接触できる場所を決めてコミュニケーションを行う。
	• 上記目標に対応する区分	健康の保持 心理的な安定 人間関係の形成 環境の把握 身体の動き コミュニケーション
• 支援の手立て	• 本人が好きな活動の時間や場所を設定し、気持ちの切り替えを促す。 • 肩を叩いて人を呼ぶなど、様々なコミュニケーションを示す。	
1学期の振り返り	• 児童生徒の様子、変化、課題	• □頭指示を中心に言葉がけによる促しを行うことで、落ち着くことの意識を持てた。 • 本人の行動から言語化して言葉を重ね、意図の確認を行うことで見通しを持てた。 • 「お代わり」「おはようございます」など発語を促した。繰り返し行う時も我慢強くできた。
	• 教員自身の成果や課題 • 効果的だった支援の実践方法等	• 気持ちが行動面に出ることもあるが、概ね落ち着いて過ごすことができた。 • 手持無沙汰の際に、靴下をむしって糸くずを投げることもあり、□頭指示では難しかった。
グループ討議	<u>全校研究②学年・クラスで検討</u> • 参考になった支援方法等	手持ち無沙汰の時に糸を投げる行為があり、授業中など見通しがはっきりしている場合は見られない。代替行為を試して見てはどうか（はぎれなどを使用）

2学期の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の様子、変化 	<p>学校生活での見通しや口頭指示のタイミングなどの理解が進み、自ら落ち着きを見せる場面もあった。結果、手持無沙汰な時間が減少し糸を触る時間が減っていた。学校外で同様にひらひらさせているとのこと。</p> <p>傷などを触る行為があり、こだわりが強く出ることもあったが、学校・家庭・デイで手袋をすることで一様の解消が見られた。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・教員自身の成果や課題 ・効果的だった支援の実践方法等 	<p>教員側も発語によらない意思疎通に慣れ、スムーズにコミュニケーションが図れることが増えた。</p> <p>習慣になるようなきっかけを行うことで、やることがわかり安心につながった。</p>
まとめ	<p><u>全校研究③学年・クラスで検討</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の来年度の目標、課題等 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き落ち着いて学校生活を送ることができる。 ・コミュニケーションツールを用いて意思を伝えることができる。 ・要求に対して、自傷につながるがあった。自立に向けての課題もあるが、さまざまな経験からコミュニケーションの幅を広げたい。

実態把握と目標設定	• 学部	中
	• 学年	
	• 対象児童生徒の障害	<p>■知的障害、□自閉症、□LD（学習障害）、□ADHD（注意欠陥・多動性障害）、 □情緒障害、□視覚障害、□聴覚障害、 ■その他（ダウン症）</p>
	• 対象児童生徒の課題	<p>課題：日常生活においての簡単な指示言語は理解しているだけでなく、ひらがなの読み書きも、イラストを見てその名詞を正しく書くことができるので内言語はかなり持っていると思われる。 しかし、なかなか発語につながらず、本人の要求を伝える方法が指差しや教員の手を持っていくことがほとんどである。</p>
	• 自立活動の目標	<p>• 教員とのかかわりの中で発語を増やす。</p>
	• 上記目標に対応する区分	<p>健康の保持 心理的な安定 人間関係の形成 環境の把握 身体の動き コミュニケーション</p>
• 支援の手立て	<p>• 本人と遊びのかかわりの中で、どの程度指示理解があるのかはかりつつ、本人がしたいことを見つけ、要求が出るような場面を設定し、「貸して」「ペン」などの言葉の発音を手本として聞かせ、一緒に発音するように促す。</p>	
1学期の振り返り	• 児童生徒の様子、変化、課題	<p>• ホワイトボードに絵を描くなどの遊びをとおして、関係を作ることができた。促すことで「貸して」などの発語の練習に取り組むことができた。</p>
	<p>• 教員自身の成果や課題 • 効果的だった支援の実践方法等</p>	<p>• 本人が取り組みやすい場面や内容を見つける。 • 遊びを絡めると、取り組みやすい。(排泄指導で、カウントダウンをするなど)</p>

グループ討議	<p>全校研究②学年・クラスで検討</p> <ul style="list-style-type: none"> 参考になった支援方法等 	<ul style="list-style-type: none"> 「～しなさい」とすべきことを伝えるよりは、遊びの中に組み込んで身につけられるようにすることを継続する。
2学期の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の様子、変化 	<p>給食のおかわりが欲しい時に、皿を差し出し、食べたいものを指さして伝えていたので、「ちょうだい」というように促し続けた。本人が特に好きなメニューの時は、「ちょうだい」ということができた。</p> <p>その他の場面でも、「もって」「やって」などいうようになり、発音することが増えてきた。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> 教員自身の成果や課題 効果的だった支援の実践方法等 	<p>本人の行動を観察し、どの場面でどの言葉を言うようになってほしいか考え、実施することができた。身振り言語で伝わってしまうので、あえて教員が待ち、発語を促す必要がある。</p>
まとめ	<p>全校研究③学年・クラスで検討</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の来年度の目標、課題等 	<p>発語を増やし、使える場面を増やす。</p> <p>担任だけでなく、自ら発語し、要求を伝える人を増やす。</p>

実態把握と目標設定	• 学部	中
	• 学年	
	• 対象児童生徒の障害	<input type="checkbox"/> 知的障害、 <input type="checkbox"/> 自閉症、 <input type="checkbox"/> LD（学習障害）、 <input type="checkbox"/> ADHD（注意欠陥・多動性障害）、 <input type="checkbox"/> 情緒障害、 <input type="checkbox"/> 視覚障害、 <input type="checkbox"/> 聴覚障害、 ■その他（急性脳炎ののちてんかん発作）
	• 対象児童生徒の課題	自分の要求や困ったことを伝える手段を増やし、着替えや食事など身辺自立でできることを増やす。
	• 自立活動の目標	身振りやサイン、身近な言葉を発音して、自分の要求を伝えることができる。
	• 上記目標に対応する区分	健康の保持 心理的な安定 人間関係の形成 環境の把握 身体の動き コミュニケーション
	• 支援の手立て	要求が伝わる経験を積めるよう、言葉かけや本人の知っているサインを用いる。褒めることで、また要求を伝えようとする動機に繋げる。 絵カードや音声絵本など興味を引く教材を用いて一緒に取り組み、語彙を広げられるようにする。
1学期の振り返り	• 児童生徒の様子、変化、課題	支援により要求を言葉やサインを用いて伝える場面があった。愛着傾向の注目欲求がみられ、問題行動への注意や無視が行動強化となりやすい。安心できる環境作りやラポール形成…褒めることや気持ちの言語化での共感、などが有効と思われる。
	• 教員自身の成果や課題 • 効果的だった支援の実践方法等	上記の課題に加えて、他害行動やてんかん対応にも留意が必要である。事前から周囲との打ち合わせ・連携が功を奏した場面と、ブラッシュアップが必要な部分も見えた。信頼関係の構築が効果的と思われる。担任間で、時と場合で指導、安心の場など分担することが良い。
グループ討議	全校研究②学年・クラスで検討 • 参考になった支援方法等	教員をはじめ、普段の関わりが大切であり、適応した関わりが芽生え始めている。今回のような情報交流で彼の特性や背景が共有できたこと自体がひとつ有効と考える。

2学期の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の様子、変化 	<p>生活全般で、要求を言葉で伝えられる場面が増えている。伴って4月当初から顕著だった「叩く・唾を吐く」といった望ましくない行為が格段に減っている。愛着による注目欲求は変わらずみられるが、「かまって・あそんで」と周りの大人に言って伝えられるようになっており、要求を言葉にする→叶うという経験を通してより安心できる環境やラポール形成に繋がりがつつある。今までに見られなかったこととして、友だちに自ら関わろうとする場面もみられるようになり、コミュニケーションや言葉の発達に伴って、見える世界が広まっているようである。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・教員自身の成果や課題 ・効果的だった支援の実践方法等 	<p>関わり遊びなどを通して、本人の意欲に乗って、発音や口の形の手本を見せることや、発声に繋がる支援を続けたことが実を結んだように思う。「おはよう・バイバイ」の挨拶が言えることが次の課題である。</p>
まとめ	<p><u>全校研究③学年・クラスで検討</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の来年度の目標、課題等 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の欲求を言葉で伝えられるようになる。 ・挨拶の言葉が言える。 ・友だちと仲良く関わることができる。

実態把握と目標設定	• 学部	中
	• 学年	
	• 対象児童生徒の障害	<input checked="" type="checkbox"/> 知的障害、 <input type="checkbox"/> 自閉症、 <input type="checkbox"/> LD（学習障害）、 <input type="checkbox"/> ADHD（注意欠陥・多動性障害）、 <input type="checkbox"/> 情緒障害、 <input type="checkbox"/> 視覚障害、 <input type="checkbox"/> 聴覚障害、 <input type="checkbox"/> その他（ ）
	• 対象児童生徒の課題	課題：自分の意見を伝えることが難しい。
	• 自立活動の目標	<ul style="list-style-type: none"> • 自分の意思を様々な方法で表現することができる。 • 他者に流されず、見通しを持って自分がすべきことを行うことができる。
	• 上記目標に対応する区分	健康の保持 心理的な安定 人間関係の形成 環境の把握 身体の動き コミュニケーション
	• 支援の手立て	<ul style="list-style-type: none"> • 様々な場面をとおして、教員が問いかけたり、選択肢を設けたりして、本人が思っていることを伝えやすいような環境を設定する。 • 今すべきことについての言葉かけをしたり、タイムタイマーなどを使用し視覚支援を行ったりする。
1学期の振り返り	• 児童生徒の様子、変化、課題	<ul style="list-style-type: none"> • 前期の児童生徒会選挙へ立候補したい旨を自ら教員へ伝えることができた。教員からの質問や問いかけに対して自分の気持ちを言葉で伝えることができた。 • 今すべきことを時計を確認して行うことができた。
	• 教員自身の成果や課題 • 効果的だった支援の実践方法等	<ul style="list-style-type: none"> • タイムスケジュールや予定を事前に伝えて見通しを持って行動することができた。

グループ討議	<u>全校研究②学年・クラスで検討</u> ・参考になった支援方法等	・自分の言葉で嫌な時は断れるようになる。 ・教員が断るロールモデルをみせる。
2学期の振り返り	・児童生徒の様子、変化	エンジョイタイムや昼休みなどの活動で自分のしたいことを決めて活動することができた。友だちや教員に違うことをお願いされたり、誘われた際に自分を優先して断ることができた。
	・教員自身の成果や課題 ・効果的だった支援の実践方法等	事前に断り方を伝えたり、断れる流れの会話で練習することで実際に自分の意見を言うことができた。
まとめ	<u>全校研究③学年・クラスで検討</u> ・児童生徒の来年度の目標、課題等	・相手へわかりやすく伝えることができる。学年教員や担任等、普段からコミュニケーションを取る機会が多い相手だと意味を汲み取ってくれるケースもあり、初対面の相手でも伝わるようにしたい。

グループ討議	<u>全校研究②学年・クラスで検討</u> ・参考になった支援方法等	・環境設定と伝え方（淡々と伝える） ・担当やリーダー的な役割など責任感を持つことで自分の行動や言動に意識できる時がある
2学期の振り返り	・児童生徒の様子、変化	1学期に引続き否定的な言葉の表現が出ることがあったが、教員の言葉かけですぐに気づき正しく素直な言葉で言い直すことができる時が多くなった。引き続き、その都度言葉かけをしていく必要がある。 友だちと関わりたいが故に相手が興味を引くような否定的な言葉かけをすることがあった時には、なぜそのような言葉かけをしたのかの気持ちを聞き、素直な言葉かけと一緒に考えて発言することができた。今後も見守りが必要である。
	・教員自身の成果や課題 ・効果的だった支援の実践方法等	素直に聞き入れることができる場面が多くなった。 自分の気持ちを素直に伝えることは、相手との今後の関係につながっていくことを説明すると、友だちに言う前に確かめにくることが多くなった。
まとめ	<u>全校研究③学年・クラスで検討</u> ・児童生徒の来年度の目標、課題等	・相手の目を見て、一定時間話を聞くことができる。

実態把握と目標設定	• 学部	中
	• 学年	
	• 対象児童生徒の障害	<p>■知的障害、□自閉症、□LD（学習障害）、□ADHD（注意欠陥・多動性障害）、</p> <p>□情緒障害、□視覚障害、□聴覚障害、</p> <p>□その他（ ダウン症 ）</p>
	• 対象児童生徒の課題	<p>・ 生徒自身が支援を欲するときに自分からサインや言葉が出にくい。着替え時など他者からの言葉かけや支援を待ち、自ら活動に取り組もうとする意欲があまり見られない。</p>
	• 自立活動の目標	<p>・ サインを交えた言葉での表現を活発にする。</p>
	• 上記目標に対応する区分	<p>健康の保持 心理的な安定 人間関係の形成</p> <p>環境の把握 身体の動き コミュニケーション</p>
	• 支援の手立て	<p>・ 教員や友だちとのやり取りの機会を確保し、会話をすることができる環境を整える。</p> <p>・ 教員が、一つ一つモデルとなる動きを伝えたり、示したりする</p>
1学期の振り返り	• 児童生徒の様子、変化、課題	<p>・ 宿泊学習を機に、自分から言葉で伝えようとする態度や、言葉でのやり取りが増えた。話が弾む複数の生徒が同室であったことから、友だちが言葉数多いやり取りをする場面に触れることができたことが良い刺激となったように思われる。表出される言葉の数も豊富になってきた。動作とともに表現されることも多く表現したい気持ちが表れている。□周辺の動きが硬いところがあるので□腔内外のケアも取り入れることが必要と思われる。</p>
	<p>• 教員自身の成果や課題</p> <p>• 効果的だった支援の実践方法等</p>	<p>・ 生徒が用いることができる語彙が、少なかったり意味を間違っ理解したりしていることがある。日常の関わりの中で、教員が伝える言葉の意味を踏まえながら、言葉でコミュニケーションを充実させることが必要。</p> <p>・ 動作や表情だけで表現を終えようとしがちだったが、言葉を使った表現のモデルを見せたり、一緒に言ったりするなど日常の支援を言葉で伝え続けたことで表出言語が増えたと考えている。</p>

グループ討議	<u>全校研究②学年・クラスで検討</u> ・参考になった支援方法等	・友だちの話のやり取りのロールモデルを見せる。 ・口腔ケアを計画実施する。
2学期の振り返り	・児童生徒の様子、変化	・言葉がスムーズに出ることが多くなってきている。話す相手の口調が強い場合は、緊張して言葉が出ないこともある。活舌面ではまだ聞き取りにくい場面があるが、友だち同士で遊んでいるときには、関西弁交じりで会話を楽しんでいる。
	・教員自身の成果や課題 ・効果的だった支援の実践方法等	・教員が言葉かけをする際、話すスピードや声の大きさ強さなどを状況に合わせて伝える。 ・絵やカードなどを用いるだけでなく、簡単な言葉かけを伴うと理解しやすい状態を作ることができる。
まとめ	<u>全校研究③学年・クラスで検討</u> ・児童生徒の来年度の目標、課題等	・教員が場面を設定し、自分から人に関わるようになる。

実態把握と目標設定	• 学部	中
	• 学年	
	• 対象児童生徒の障害	<input type="checkbox"/> 知的障害、 <input checked="" type="checkbox"/> 自閉症、 <input type="checkbox"/> LD（学習障害）、 <input type="checkbox"/> ADHD（注意欠陥・多動性障害）、 <input type="checkbox"/> 情緒障害、 <input type="checkbox"/> 視覚障害、 <input type="checkbox"/> 聴覚障害、 <input type="checkbox"/> その他（ ）
	• 対象児童生徒の課題	<p>• 発語がないため、意思表示の方法がほとんどない。ただ、自分の思いは確実に持っており、先に行動してしまう。日常生活で大きく困ることはないが、今後社会に出た際に意思表示できる手段を獲得する必要がある。（カードや写真の理解やサイン、身振りなど）</p>
	• 自立活動の目標	<p>• カードを使って、自分が行きたい場所を教員に伝えることができる。</p>
	• 上記目標に対応する区分	<p>健康の保持 心理的な安定 人間関係の形成 環境の把握 身体の動き コミュニケーション</p>
	• 支援の手立て	<p>• エンジョイタイムの際に、自分の名札を行きたい場所に貼るように促す。思っていた場所と違う箇所に名札を貼ってしまった際には、教員と再確認し行きたい場所に貼り直してからその場所へ行くようにする。</p>
1学期の振り返り	• 児童生徒の様子、変化、課題	<p>• 毎日取り組むことでルールを理解し、また、行く場所の位置も覚えて確実に貼ることができた。当初は教員の話を見かずに適当に貼ることもあり、思った場所と違う場所に行くこともあったが、今はきちんと自分の意思をもってカードを貼ることができている。</p>
	• 教員自身の成果や課題 • 効果的だった支援の実践方法等	<p>• 本人が間違えたであろう場所にカードを貼っても、その場所に行くように促し、「カードを貼る」意味を分かるようにした。様子をよく観察し、本人が困っているそぶりを見せた際には、移動前に再度カードを貼るように話をし、行きたい場所に貼るようにした。ただ、形式化しつつあるので、意思表出の方法をさらに身につける必要がある。</p>

グループ討議	<u>全校研究②学年・クラスで検討</u> ・参考になった支援方法等	・継続して取り組む。 ・いつでも、だれとでもできるように。 ・課題を見つけるのが難しい。
2学期の振り返り	・児童生徒の様子、変化	・毎日行っていることなので、担任でない教員とも的確に行きたい場所の所へ名前カードを貼ることができている。
	・教員自身の成果や課題 ・効果的だった支援の実践方法等	・本人がめんどくさいと思うとやらないが、毎日しつこく教員が働きかけると、「やらない方がめんどくさい」となるため、毎日取り組むことが大切だった。
まとめ	<u>全校研究③学年・クラスで検討</u> ・児童生徒の来年度の目標、課題等	本人が興味を持ったりやってみたりしたいことを設定し、自発的に動くような場面を設定する。 大人との会話も増やし、内言語も増やしていくようにする

2学期の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の様子、変化 	引き続き、他害は減少傾向にある。
	<ul style="list-style-type: none"> ・教員自身の成果や課題 ・効果的だった支援の実践方法等 	当該生徒の気持ちがより分かりやすくなったことで、落ち着いて対応に当たれるようになった。
まとめ	<u>全校研究③学年・クラスで検討</u> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の来年度の目標、課題等 	自主的なコミュニケーションを教員が尊重しつつも、「我慢」「あとで」などの教員側の要求も本人が受け入れられるようになること。

実態把握と目標設定	• 学部	中
	• 学年	
	• 対象児童生徒の障害	<input type="checkbox"/> 知的障害、 <input type="checkbox"/> 自閉症、 <input type="checkbox"/> LD（学習障害）、 <input type="checkbox"/> ADHD（注意欠陥・多動性障害）、 <input type="checkbox"/> 情緒障害、 <input type="checkbox"/> 視覚障害、 <input type="checkbox"/> 聴覚障害、 <input checked="" type="checkbox"/> その他（ ダウン症 ）
	• 対象児童生徒の課題	<ul style="list-style-type: none"> • 周囲に要求を言葉で伝えずに、自分で行動していたり、単語のみで要求を伝えたりすることがある。 • 友だちの名前や身近なものの単語を覚えているが、言い間違いや喃語もあるので、はっきりと言葉で伝えることが課題である。
	• 自立活動の目標	<ul style="list-style-type: none"> • 自分の要求や友だちの名前、一日の感想などを、はっきりと言葉で伝える。
	• 上記目標に対応する区分	健康の保持 心理的な安定 人間関係の形成 環境の把握 身体の動き コミュニケーション
	• 支援の手立て	<ul style="list-style-type: none"> • 単語で自分の要求を伝えた時に、二語文で伝えるように具体例を示して、繰り返し言葉かけを行う。 • 言葉の言い間違いなどがあつた場合は、正しい単語や文章を伝え、復唱するように促す。
1学期の振り返り	• 児童生徒の様子、変化、課題	<ul style="list-style-type: none"> • 朝の会や帰りの会で、正しい呼名をしたり、聞き取りやすい言葉遣いで進行したりすることができるようになってきた。 • 教員が促すことで、言葉を二語文に変えて言うことができた。
	• 教員自身の成果や課題 • 効果的だった支援の実践方法等	<ul style="list-style-type: none"> • 生徒が単語で自分の要求を伝えた時に、二語文で伝えるまで待つことが効果的だった。自分から言葉を言うことが難しい場合は具体例を示して支援を行った。 • 教員にとっては、根気強く「待つ」ことが課題。
グループ討議	<u>全校研究②学年・クラスで検討</u> • 参考になった支援方法等	<ul style="list-style-type: none"> • SST で、悪い例、良い例を見せて、選ばせる指導を取り入れる。（伝え方について） • 良い例を選んだ時に褒める。 • 自分から要求を伝えたり行動したりするように促す。

2学期の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の様子、変化 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的に、自分から二語文で伝えることが増えてきた。 ・「ほ」を発音する時に「こ」と言ってしまうことがあるが、教員の言葉を復唱したり、言い直したりすることができた。
	<ul style="list-style-type: none"> ・教員自身の成果や課題 ・効果的だった支援の実践方法等 	<ul style="list-style-type: none"> ・「〇〇にってきます」や「〇〇してください」など教員と一緒に掛け声のように、繰り返し言うことで、本人から言葉で伝えようとする意欲を引き出すことができた。
まとめ	<p>全校研究③学年・クラスで検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の来年度の目標、課題等 	<ul style="list-style-type: none"> ・行動する前に二語文で伝えることを意識する。 ・異性とコミュニケーションをとる時に、相手が安心できるような距離で関わることに気付く。

実態把握と目標設定	• 学部	中
	• 学年	
	• 対象児童生徒の障害	<input type="checkbox"/> 知的障害、 <input checked="" type="checkbox"/> 自閉症、 <input type="checkbox"/> LD（学習障害）、 <input type="checkbox"/> ADHD（注意欠陥・多動性障害）、 <input type="checkbox"/> 情緒障害、 <input type="checkbox"/> 視覚障害、 <input type="checkbox"/> 聴覚障害、 <input type="checkbox"/> その他（ ）
	• 対象児童生徒の課題	課題： 自分の気持ちを相手に伝えられず、イライラする。 イライラしたり、体調不良になったりしたときに他者に伝えることが難しい。 気持ちが安定しているときには、課題にとりくむことができる。 他者に何らかの方法で自分の思いを伝えられるようになることが課題である。
	• 自立活動の目標	<ul style="list-style-type: none"> • 帰りの会では、その日の感想を感想ボードから選ぶことができる。 • エンジョイタイムでは、行きたい場所をカードから選ぶことができる。
	• 上記目標に対応する区分	健康の保持 心理的な安定 人間関係の形成 環境の把握 身体の動き コミュニケーション
• 支援の手立て	<ul style="list-style-type: none"> • 時間割や気持ちのカードから、その日の感想を選ぶことができるようなボードを用意する。 • 教室や体育館などの行先カードをつくり、選択できるようにする。 	
1学期の振り返り	• 児童生徒の様子、変化、課題	<ul style="list-style-type: none"> • 感想ボードを毎回使うことで、「選ぶ」という意識はもてているように感じる。気持ちが安定しているときには、感想ボードを使って感想を伝えようとすることができた。感想ボードを見ずに手探りで選ぶことがあるので、見て選ぶことが課題である。
	• 教員自身の成果や課題 • 効果的だった支援の実践方法等	<ul style="list-style-type: none"> • 手をひっぱる、相手の体をおすなど、カード以外での表現で伝えようとしてくることもあるので、カードだけに頼りすぎないようにする必要がある。

グループ討議	<p>全校研究②学年・クラスで検討</p> <ul style="list-style-type: none"> 参考になった支援方法等 	<p>成功体験を増やす。</p> <p>できたときはわかりやすく強調してほめる。</p>
2学期の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の様子、変化 	<ul style="list-style-type: none"> 登校後、トイレを促すと、教員の腕を引っ張って、「行く・行かない」を選択することができた。 昼休みには行きたい場所まで教員を引っ張って自分のしたいことを伝えられることもあった。
	<ul style="list-style-type: none"> 教員自身の成果や課題 効果的だった支援の実践方法等 	<ul style="list-style-type: none"> 感想ボードは、その日の気分で使ったり使わなかったりするので、選択肢を絞って提示した方が、成功率が高かった。 トイレは、トイレの前で、口頭で行くかどうか聞くと自分の判断で選択することができた。 生徒本人の気持ちがある程度理解できるようになったことにより、担任として気持ちに余裕をもって対応できるようになったと思われる。
まとめ	<p>全校研究③学年・クラスで検討</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の来年度の目標、課題等 	<ul style="list-style-type: none"> 特定の教員以外にも、自分の意思表示ができるようになる。 新しい環境でも自分の思いを伝えられる相手や場所を見つける。

実態把握と目標設定	• 学部	中
	• 学年	
	• 対象児童生徒の障害	□知的障害、■自閉症、□LD（学習障害）、□ADHD（注意欠陥・多動性障害）、 □情緒障害、□視覚障害、□聴覚障害、 □その他（ ）
	• 対象児童生徒の課題	して欲しいことがあっても教員の指示を待ってしまうこと。自分から要求を伝えることが難しいこと。
	• 自立活動の目標	•要求の手段を獲得し、自分で要求を伝えることができる。
	• 上記目標に対応する区分	健康の保持 心理的な安定 人間関係の形成 環境の把握 身体の動き コミュニケーション
	• 支援の手立て	• して欲しいことがあるときに、教員が要求の伝え方の見本を提示し、繰り返し取り組むことで定着を図る。
1学期の振り返り	• 児童生徒の様子、変化、課題	• 特定の要求に関しては自分から教員に対して行うことができるようになってきた。他の要求に関してはまだまだ継続して取り組む必要がある。
	• 教員自身の成果や課題 • 効果的だった支援の実践方法等	• 生徒自身が興味のある課題でないと効果が薄かったので汎化の段階ではないと感じた。
グループ討議	<u>全校研究②学年・クラスで検討</u> • 参考になった支援方法等	• 自ら行動するという場面を設定することで本人が思考する時間を取る。その結果が行動に結びつくという観点。

2学期の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の様子、変化 	<p>特定の要求に対して、自席を立てて教員のところへ行き、要求を伝えることができるようになってきた。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・教員自身の成果や課題 ・効果的だった支援の実践方法等 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒自身が興味を持っていることに限定して、支援を行うことで習熟の期間が短かったように感じる。今後は日常生活に関わることに對しても広げていく必要がある。
まとめ	<p>全校研究③学年・クラスで検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の来年度の目標、課題等 	<p>特定の要求ではなく「何かしてほしいことがあれば自分から伝える」ことを目標にする必要がある。</p>